

# 大学における学生の 自立支援のあり方について

宮元 純孝

(中村学園大学 事務局次長兼就職課課長)

はじめに

私は、九州・福岡に所在する中村学園大学・中村学園大学短期大学の事務職員で、学生支援センターの就職支援オフィス(就職課)にデスクを置き、主に就職支援部署の業務に携わっている。

奉職して二五年が過ぎ、学生の役に立てる実感が味わえる今の仕事にやりがいを感じており、そういう場に居られることに感謝している。一方で、就職支援を通して学生気質の変化を垣間見ることが多くなった。学生のために

自分は何をすべきなのか、何ができるのか、このことを以前にも増して、何度も繰り返し考えさせられている。大学における学生の自立支援のあり方とはどのような支援が適切なのか？

つい最近も、教員(就職委員)から、「就職課に相談に行ったら、ところが折れた」と学生から報告があった、こういう壊れやすいガラスのころもを持った学生も増えているので、対応については適切な配慮をお願いしたい、学科でも努力するので事務局でも一緒に頑張って努力して欲しい」と要望が出された。

常日頃、相談を受ける者の基本的な心構えや留意点につ

いては、部署内で共通の意識を持って対応するようミーティングを繰り返して取り組んでいただけに、OJTの効果がなかったのかと残念でならなかった。早速、スタッフ全員で集まりミーティングを行い、事実確認と今後の対策について話し合い、改めてカウンセリングマインドについて意識の共有を図った。

部署内でディスカッションした要点は、

①今一度カウンセリングマインドの基本について考え、学生対応を心掛けよう。

②一方で、学生も自分の考えと異なる意見を言われても、聞く耳と挫けない強さを持つて欲しい。それを育成する対応を心掛ける。

この二点である。

採用担当者からも、「がまん強い」人が欲しい、「社会人基礎マナー」を身に付けさせて欲しい、学業成績よりも人を重視します、というコメントが就職担当部署へよく出される。こういった現状からも、特に②に繋がる支援が重要であると受け止めている。

就職支援部署の立場で、出口から見た学生の現状と課題を振り返ってみたい。学生の「自律」「自立」支援について考える、ということに通じるのではないだろうか……。

## 出口から見た学生の現状と課題

「在学生を見て」

「求めよ！さらば与えられん」このことばがどうしても浮かんできてしまう。以前と比べて今の学生は自ら求めるところまで行っていない、と感じることが多い。求めるのではなく、与えられるのを待つ学生がいかが増えてきたとか。求める気持ちになっていないので与えられているのにも気付かず、いろんなチャンスを無駄にしている。自ら求める意識が薄いので充実感や感動や感謝がない。

更に、高等教育機関でありながら学習習慣が身に付いていないために、見ない・読まない・考えない・行動できなない、こういう悩ましい学生が見受けられるようになってきた。精神的にもおそろしく打たれ弱い。試練を与える家庭環境がなく厳しいことばで叱責されたことがないので、意に沿わないことばを投げかけられると、それが些細なことであろうと情理を尽くしたことであろうと受け入れられず、自己愛が強くところが折れてしまう。悲しみや怒りとうまく付き合っていない。人間としての成長がない。

そういった幼児性を持った学生に対して、教員も在学中

の学生の満足度アップの方に意識を持たざるを得ないプレッシャーからか、教育以前の問題と捉えてか、遅刻学生や途中退席学生への注意も遠慮がちで、また、予習・復習の課題提供も不十分で、益々学生の自律を停滞させているのではないか？

つまり、一部の学生とはいえ、以前の学生と比べて就職支援を行う立場で困っていること・悩ましいことといった直接的な視点で課題を捉えると、次の点が挙げられる。

・アルバイト中心の生活になっており、勉学・課外活動が不活発で、採用試験の面接時に大学生活について質問されても語れるものがない

・ダメなものダメと注意・指導を受けることに慣れていないので、規律性・社会性に欠け遅刻・無断欠席を繰り返し、時間にルーズでマナーが身に付いていない

・集中力や忍耐力不足  
・読み書きが苦手で自己表現ができず、履歴書・自己紹介書が書けない

・卒業後に親から自立するという意識が薄く、親の子離れ・子の親離れができていない（子供にさせず親が応募先へ問い合わせるケース）

・親の仕事が学生は知っていない

・生活設計・将来設計を持って、責任が伴う正規待遇に怯え卒業後もアルバイトでいいという考え方

・働き方についての価値観の多様化が顕著で、今の自分ができることという視点で進路選択をし、就職後に勉強することが求められる業界を敬遠する傾向

・自分自身で考えられず直ぐ答えを求める姿勢や、単独で行動することが苦手な他者への依存度が高く、友達と一緒にできないと行動できない

・自分から挨拶することや語り掛けができず、コミュニケーション力が育成されていない

### 卒業生を見て

出口を担当していると就職した卒業生について、つくづく考えさせられることが多い。近年では非正規雇用待遇など不安定な職に就く者の割合が増し、離転職率も上昇傾向にある。また、数少ない珍しい事例ではあるが、卒業後間もなく産休願いを出す事例、入社式に無断で現れず別の内定会社へ入社した事例、出勤一日で退職した事例、母親が全て退職の意思表示をし私物受け取りも母親が現れた事例など、以前はこういった事例に係った記憶がない。近年の現象である。

卒業後に短期離職者から相談を受けて感じる共通点は次の点である。

- ・職場の同僚・先輩・上司の誰にも相談せず、退職を即決している。

- ・職場内環境や他者への不満・不信ばかり話し、自己の改善点については一切話が出て来ない。

- ・ノアポで突然、大学を訪れ、退職理由も話さずその場ですぐ次の求人紹介をしてくれるものも考えている。

上記の共通点について感じることは、卒業

【参考資料】

若年正社員に望むことや身につけて欲しい能力別企業割合（3つまでの複数回答）

(%)

職業意識・ 勤労意欲	強い責任感	忍耐力	マナー・社会常識・ 一般教養	柔軟な発想	新しい感性・ 精神・向上心	チャレンジ 実行力	リーダーシップ・ 専門知識や技能	企画・立案力	理解力・判断力	コミュニケーション 能力	特になし	不明
49.0	37.6	18.5	39.4	15.4	40.4	10.4	19.4	6.8	17.3	27.0	1.1	2.1

資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「企業における若年者雇用実態調査」（2005年）

生のコミュニケーション力や忍耐力や社会人基礎力が不足しているのではないか、という点である。

こんな事例を経験していると、大学の紹介責任といったことも考えさせられる。従って、最近の卒業生対象の就職支援促進という課題についても慎重にならざるを得ない。社会人教育・職業訓練を要すると判断される卒業生にどこまで対応できるのか、そのための教育プログラムを整備できるのか、といった検討が必要である。卒業生対象の支援の必要性は理解しつつも、同時に大学の紹介責任も踏まえた支援のためのシステム設計も必要ではないだろうか。大学に求められる学生支援の取り組みとは何だろうか？

求められる学生支援の取り組み

私は、動物の生態を報じるTV番組をよく観ている。共通していることは愛情を持って親や群れが子育てをするのが、成長期には冷酷に独り立ちをさせ群れのルールを厳しく教える。最終学府である大学に求められる学生支援の在り方もこれと無縁ではないと感じる。生活様式や価値観が多様化した現代においては、自立の在り方は一様ではないかもしれないが、経済的自立・精神的自律に向けた意識・

知恵を授けトレーニングする期待が大学に対して持たれていることは間違いない。

しかし、大学の取り組みだけで現状の課題が改善できるのか？ 社会で活躍する人材育成は社会全体がそれぞれの立場で係らなければ不完全であろう。家庭での取り組み・学校での取り組み・雇い入れた受け入れ先での取り組み・自治体での取り組みなど様々な取り組みで若者を自立・自律させなければならない。

今、大学ではキャリア教育・キャリアガイダンスということばが頻繁に聞かれるようになってきた。働く意識を持たせる教育の必要性は十分理解しつつも、そんなことまで大学がしないといけないのかと辟易する気持ちもある。親とコミュニケーションを持って・入学したのなら学生自身が自分のことを考えて先ず目の前のカリキュラムに真剣に取り組み・読め・学べ・行動しろ、これが就職支援部署の立場で感じている本音である。

本音を振りかざしても何も解決しない現状の中で、大学の学生支援センターで愚直に取り組んでいる支援内容を一部紹介し、事務局のみの視点からまとめさせていただいた不適切さをお詫びしつつ、汗顔の至りの心境でむすびとしたい。

- ・ 職員の能力開発促進（階層別研修・各部署業務に関する専門的研修・勉強会ほか）
- ・ 大学間連携（各部署単位での情報交換・連携等推進）
- ・ 大学独自の奨学金制度設置
- ・ 就職活動遠隔地旅費支援制度導入（働く場所について視野を広げられるサポート）
- ・ 後援会連絡会開催（保護者対象に大学の現状を報告し、保護者との連携を促進）
- ・ 新入生対象職業適性検査実施（自分の職業適性を知り、大学生活をどう過ごすか検討を促すサポート）
- ・ 親（保護者）対象就職説明会開催（就職状況説明と親子のコミュニケーション啓発）
- ・ 卒業生と在学生の交流会開催（職場体験等を通じた職業意識の形成を図る）
- ・ マナーセミナー開催（社会人教育）
- ・ ニート・フリーターガイダンス（現状と厳しさ紹介）
- ・ 自治体との連携（就職問題について頻繁に現状報告・相談・要望を行うなどコミュニケーションを図る）
- ・ 個別面談による支援を中心にサポートする